

過去問演習の指示と演習方法について～医学部予備校エースアカデミー

▽過去問演習の指示について

過去問演習は、申請いただいている受験可能校や課題の進捗、成績等をふまえて生徒個別での指示をメールにて行います。

過去問演習の開始時期も個別で違ってくるため各自の指示に従ってください。

* 1ヶ月の間に過去問演習を行う大学を個別でメールにて指示します。
指示内容にあわせて各自ペース配分をして報告、分析提出を行ってください。

ペース配分の例

1ヶ月に4つの指示→1週間に1回演習するペース

1ヶ月に2つの指示→2週間に1回演習するペース

* 申請いただいている受験可能校の中から指示を行います。受験可能校を変更する際は、「受験可能校申請フォーム」から申請をお願いします。

注意: 変更の際は必ず再度すべての項目、大学を記入、選択してください。

* 過去問演習の指示は、前月20日時点の受験可能校申請にもとづいて、月初に行います。受験可能校に変更がある場合は、必ず前月20日までに申請をお願いします。

* 受験可能校として申請されていても、実力が足りていないと判断した大学の過去問演習は、時間を無駄にするどころか上滑りを起こすため原則として指示を行いません。

* 国立医学部の過去問演習について

国立医学部は共通テスト本番の自己採点の結果によって受験推奨校をお伝えし、最終的にどの大学に出願するかを決定します。

共通テストの結果次第で受験校が大きく変わることが多いため、共通テストまでは国立の過去問演習は原則として行いません。

2月からでも受験本番まで3週間あるので、その期間で十分に過去問演習が可能です。
共通テストが重要となるため、基礎の復習や共通テストのための試験の解き方の練習に専念しましょう。

▽過去問演習の指示の例

11月の過去問演習：

東邦大学
日本医科大学
共通テスト

→11月の間に東邦大学、日本医科大学、共通テストの順に最新年度(2025)の過去問演習を行う。目安としては約1週間に1回のペース。

* 指示が複数ある場合は、指示の中で、上に記載している大学の過去問演習を優先してください。

* 過去問が未発売の大学の指示について

指示があった大学は、当月中までに発売予定となっています。
そのため、赤本等の過去問が発売されてから演習を行ってください。

* 東海大学、帝京大学など3教科で受験する大学の過去問演習について

本番では3教科で受験する大学においても、他大学のための解き方の練習や復習計画の作成のために、時間に余裕があれば通常の4教科(英、数、理、理)で演習を行ってください。

* 帝京大学のように同じ年度で複数日程分の試験問題がある場合

過去問に複数日程分の試験問題が掲載されています。
演習はどちらかでよいので、原則として①のみを演習してください。

* 過去問の購入について

随時、塾生ページに過去問と解説集を掲載予定です。
ただし、演習指示があった過去問は、原則として自身で購入するようお願いします。
(著作権の関係)

▽過去問演習の報告について

重要「過去問演習報告フォーム」から報告をしてください。

過去問演習報告フォームの報告をもって、次の月の過去問演習指示を行います。

報告は必ず月末までに行ってください。

* 過去問演習は自己採点の得点を出す必要はありません。
報告の際には、過去問演習報告フォームから演習を行った大学名のみを報告してください。

* 過去問演習の指示後に受験可能校を変更し、特定の大学の過去問演習を行えず、次の月の指示がほしい場合は、その大学の過去問演習を行ったものとして報告してください。

(過去問演習の指示の変更は対応できませんので、上記のとおり、必ず前月**20**日までに受験可能校の修正をお願いします)

▽(通塾、Zoomコースのみ)分析提出について

<注意>通塾、Zoomコース生は「過去問演習報告フォーム」「模試分析シート提出フォーム」の2つを提出します。

塾生ページの資料→「模試や過去問演習の分析方法」の資料の通り分析を行い、「模試分析シート提出フォーム」にて提出してください。
(模試の分析と同じフォームです)

* 提出方法の注意点
・「模試名」: その他を選択
・「その他の場合の模試名」: 過去問演習を行った大学名を記入してください。
例「日本医科大学」など

分析は可能な限り演習してから1週間以内に提出してください。また、複数回分をまとめて提出しないようにしてください(複数回分をまとめて提出した場合は、いずれか1つのみフィードバックを行う場合があります)。

過去問演習→分析提出→フィードバック面談→次の演習 というサイクルを作りましょう。

* 通信コースは対象外: 分析提出、フィードバックは通塾、Zoomコースのみ対象となります。

▽過去問演習の時間制限について

* 重要 全教科、**10分**時間制限を短く設定して演習すること。>

→試験あたり10分短くします。例えば理科2教科で120分の試験であれば、2教科で110分の時間制限とします。

例 本番の時間制限→過去問演習の時間制限

数学 120分 → 110分
英語 100分 → 90分
理科 2教科で120分 → 2教科で110分

*「試験の解き方」の資料に「原則、制限時間から10分間を引き、残った時間を大問数で割った時間を各大問の時間配分としましょう。」とあるので、
例えば数学120分の試験の場合、過去問演習の時間制限110分から、さらに10分引いた100分を大問ごとに時間配分していきます。

本番では氏名を記入する時間やマークをする時間が必要になるほか、焦ったり普段より丁寧に解こうとするため時間はより厳しくなります。余裕をもつためにも普段の練習では必ず時間制限を10分短くして演習してください。

* 大問ごとの時間配分について

本番でいきなり過去問から大幅に傾向が変更されることも多々あるため固執するのは危険です。しかし、そうはいつでも変わらない可能性も高いため、昨年と同じ形式だったときのために受験する大学は科目ごと、大問ごとの時間配分の設定をおきましょう。
その上で、急に傾向が変わることを想定し、試験本番にさっと時間配分の目安を設定できるようにする力もつけておきましょう。

▽過去問演習の復習について

分析において作成した復習計画にもとづいて、各教科の復習を行ってください。
課題と並行して復習計画を進めてください。
優先順位や課題と復習計画の両立方法などは、毎週の面談で講師に相談しましょう。

* 過去問演習と報告、分析は最優先で行うこと

過去問演習とその報告や分析の提出は最優先で行うようにしてください。

現役生などで時間に余裕がない場合は、解き方の分析に重点をおいて提出してください。
過去問演習後の分析提出には自分なりに期限を設けて（浪人生であれば演習後3日以内が原則）、その期限内でできるだけの分析を行うようにしましょう。

▽防衛医大、推薦入試等の過去問演習について

・防衛医大:受験推奨をお送りした方は、9月または10月の過去問演習指示の際に指示を行う場合があります。

指示がない場合も、各自の判断で1回演習を行っても問題ありません。

・推薦入試:過去問演習の指示は行いません。(試験形式が大学によって多様なので)
過去問演習の意義がない大学も多く、過去問や資料が手に入る場合は、目を通しておく程度で問題ありません。その上で、各自の判断で1回演習を行っても問題ありません。

▽自由英作文の添削について

塾生ページの「過去問の自由英作文の添削について」をご確認ください。

▽過去問演習のよくある質問と回答

* 過去問演習の目的

模擬試験と全く同じで、
「試験の解き方の練習と改善」
「失点分析によって基礎の抜けを見つけること、普段の勉強方法の改善をしていくこと」
が過去問演習の唯一の目的です。

* 試験の解き方の分析

模試では形式に慣れてしまっているため、模試では解き方の分析がしっかりできていない場合があります。特に成績がよい人ほど注意が必要です。

その点、過去問演習では、時間が足りなくなったり、解けない問題が多い科目が出てくる可能性が高いので、そこでしっかりと解き方の分析と改善をすることが非常に大切です。

「よい点数をとろうとしない」「すべての問題を解こうとしない」考え方の練習もとても大切です。

「試験の解き方」の資料に記載している内容を練習し、どのような試験においても確実に徹底できるようにすることが過去問演習の最大の目的です。

言うまでもなく、解き方を徹底せずに過去問演習で高得点を取っても意味がなく、むしろ受験本番の合格可能性を下げる行為だと理解しましょう。

* 失点原因の分析を行い、問題集の取り組み方の改善を行う

模試分析と同様に、まずは基礎問題集の類題の失点を最優先で復習しましょう。普段の問題集の取り組み方を改善することも大切です。

また、傾向や難易度が変わること、普段の問題集や参考書では理解ずれを起こしていることや、理解や暗記が不十分だったことに気づくことも大切です。

当然ではありますが、過去問演習を行うだけでは全く成績は伸びません。演習後に、分析と改善、復習計画を立てて問題集や参考書の基礎の復習をしていくことで成績が伸びます。

* 過去問演習は各大学1回が最適

過去問演習の回数と卒業生の合否結果のデータから、過去問演習は各大学1回行うことが最適だといえます。

分析がしっかりできている前提であれば2回以上行っても悪いことはありませんが、効果はほとんどみられていません。

逆に過去問演習のやり方や分析がしっかりできていないまま回数だけこなしていた人は、本番で失敗する可能性が極めて高くなっています。

また、あらゆる試験において解き方の徹底ができるようになった卒業生は、過去問演習を一度も行わなかった大学においても合格しています。

* 過去問演習で高得点をとる人は本番で不合格になりやすい傾向がある

例年の傾向として、過去問演習で失点が少ない(得点を計算すると高得点になる)人ほど本番で不合格になりやすい傾向があります。

逆に、過去問演習ではボロボロで、しっかり分析を行っていた人ほど、本番でしっかり合格してくる傾向があります。

これは一見矛盾しているようにみえるかもしれませんが、下記のような理由が考えられます。

- ・過去問演習の解き方が甘く練習になっていない
- ・自己採点が甘く、復習の質が甘い
- ・分析が十分に行えていない

過去問演習の際にリラックスした状態で解くことに慣れてしまうと、入試本番では緊張感やプレッシャーから、試験の解き方を徹底できなくなってしまうということがよく起こります。

したがって、過去問演習を行う際は、できるだけ緊張感をもって本番に近い環境で行うようにしましょう。

具体的には、本番同様に4教科通して解く、いつも勉強している場所と異なる環境で行う、入試本番同様、朝から解き始める、などといった方法が挙げられます。

また、過去問演習はよい点数を取ることを目的としているわけではありません。

自己採点や過去問分析の際は、いつもより厳しく行うつもりで行いましょう。

上記の通り過去問演習の得点と実際の可否に全く相関がないので、点数のことは一切気にせず、分析して復習を行うことに集中してください。

(そのため、過去問演習は自己採点後に得点を計算しない指示としています。)

* 難易度の高い問題について

過去問では難易度の高い問題も多々出題されます。むしろ大部分の医学部で、本番で解かなくてよい、いわゆる捨て問を意図的に出題しています。

解説を読み、分析をしても自力で解けるようにならなそうな問題は、復習自体行わないことも有効です。

それよりも参考書や問題集の復習さえできていれば得点できた問題の復習を優先し、これらを徹底してください。

難易度の高い問題は、その問題を解けるようにするよりも、どうすれば本番ではそのような問題をすぐ飛ばすことができるかを分析した方が合格可能性は高まります。

* 過去問演習の質問は成績をのばすか

全く効果はなく、逆効果になります。

上記の通り自分で理解できるところを徹底して復習すること、解き方の改善をしていくことが最優先です。

例年、過去問の難易度の高い問題を質問している人ほど本番で合格できていません。

そのため、原則として過去問演習の質問は行わないようにしましょう。

過去問演習の目的をしっかりと認識して取り組みましょう。

(外部向けセミナー)

▽過去問演習のよくある間違った情報、思い込み

①各大学の過去問演習を何度も行うことが大切だと思いこんでいる

②各大学の傾向に慣れることが大切だと思いこんでいる

③自己採点を出すことが大切だと思い込んでいる

- ④合格最低点と見比べることが大切だと思いこんでいる
- ⑤頻出分野の対策をすることが大切だと思いこんでいる
- ⑥過去問の授業や質問対応を受けることが大切だと思いこんでいる

▽過去問演習のよくある失敗例

世間の受験生は、秋以降に過去問演習を大量に行い、「過去問の授業や個別指導、質問対応」を繰り返し、各大学の情報を得ることに大量の時間を使ってくれます。

その結果、

- ・大量の時間を無駄にして、せっかく習得していた基礎が本番までにどんどん抜けていく
- ・過去の傾向に固執して、試験本番でパニックになって失敗するリスクを高めている
- ・難しい問題を解くことが大切だと思い込み、上滑りを起こし、さらに合格者でも解けていない問題に試験本番で手を出してしまう。
- ・受験校選びにおいても、過去問を大量に行った大学に固執し、詰んでしまう。

世間の受験生が、このような形で勝手に自滅してくれると、塾生はその分だけ有利になります。

→2025年では、最終偏差値50台のE判定から51名の生徒様が医学部に合格

①各大学の過去問演習を何度も行うことが大切だと思いこんでいる

→効果は全くなく、3つの理由で逆効果に

1.過去問演習をしている時間は成績を伸ばす効果はないため、大量の時間を無駄にする

* よくある失敗例

「10月の模試では成績もあがってきていたが、その後過去問演習を大量にした結果、基礎を復習する時間がなくなり、せっかく覚えていた基礎の知識もどんどん抜けていってしまった。共通テスト本番や私立医学部の本番で、一番知識が抜けてしまった状態で突入してしまい不合格になった。」

2.過去問演習を大量に行うと、問題の傾向や難易度に固執してしまう結果、本番の傾向や難易度の変化があるとパニックになり大失敗してしまう

* よくある失敗例(特に**2022**共通テスト本番)

「共通テストの過去問演習では数学は時間が余っていたし、いつも90点以上とれていた。共通テスト本番の数1Aでは全く解けない問題が多く、焦ってしまった。このままではマズイと思い、次の数2Bで取り返そうと思った。しかし、数2Bでも難しい問題が多く、パニックになってしまった。そのあとの理科は全く記憶もないような状態だった。自己採点すると数1Aも2Bも今までとったことないような点数で、理科もミスを連発していた。国立医学部は出願すらできなかった。」

3.過去問演習を大量に行った大学は「思い入れ」が強くなり、受験校選びを失敗して詰んでしまう。

→もし本当に各大学の「対策」を行うことが有利なのであれば、現役生よりも浪人生、多浪生が明らかに有利なはずですが、そんなデータはありません。

医学部に合格した生徒様の中には、5校以上の医学部に合格したり、一次試験では10校以上合格した人も複数以上います。

当然ですが、各大学の過去問演習を何年分も行うことは不可能であり、実際には、全く過去問演習を行わなかった大学に合格している生徒様も多くいます。

参考)エースアカデミー→合格実績のページの表

②各大学の傾向に慣れることが大切だと思いこんでいる

過去問演習を何度も行うと、本番での傾向の変化に対応できず、本番失敗するリスクが高くなり逆効果になる。

→「正しい試験の解き方」は、「各大学の傾向に慣れる」ことではありません。

「あらゆる試験形式や傾向、難易度の変化に柔軟に対応できる解き方を習得する」ことが「正しい試験の解き方」です。

③自己採点を出ることが大切だと思い込んでいる

共通テストやセンター試験の過去問を20回行って、自己採点を出し、「あがった!」「さがった!」
と言っている受験生は多い。

→ 実際は、共通テストの平均点が上がったり下がったりしているだけで、成績とは一切関係ない。
全くの無意味で大量の時間を無駄にしている。

④合格最低点と見比べることが大切だと思いこんでいる

次の2点から、全く意味がない。

- ・本番の合格最低点の予測はできない。
(2022の共通テストですら、あれだけ予測が外れていたのに、各大学の試験の予測ができるわけがない)
- ・採点基準がわからない。

⑤頻出分野の対策をすることが大切だと思いこんでいる

全分野の基礎を徹底してこなかった人の「特効薬を求める」発想で、二次災害を起こす。他の大学も含めて医学部全体の合格可能性を大きく下げる。

* よくある失敗例

「この大学では、過去5年間、毎年〇〇の分野が出題されていた。塾の先生やネットの情報でも、この大学は〇〇の分野の対策が大切と言っていたので、その分野を何度も行った。しかし、実際の受験本番ではその分野が出ず、試験中にパニックになってしまった。また、他の分野の基礎をやっていなかったのに、出題された基礎的な問題ができず不合格になった。」

⑥過去問の授業や質問対応を受けることが大切だと思いこんでいる

過去問演習＋授業

→最もやってはいけない勉強方法！

最悪の学習方法なので注意！

- ・上滑りをする
- ・試験の解き方で失敗する
(試験本番で難しい問題に手が出てしまう)

* よくある間違えている例

「この大学ではこんな難しい問題が出るから、解けるようにしなければいけない！」:論理的思考ができてない

→合格最低点は満点ではないから一番難しい問題は合格者でも解けていない問題＝解いてはいけない問題！

→授業や個別質問対応をしてしまうと、受験生が試験中に「解かなくてはいけない」と思い込んでしまう

→合格者でも解けていない問題に時間を奪われて基礎の問題で失点し不合格に。

▽正しい過去問演習の方法

目的は2つ

①正しい試験の解き方の練習

②分析して基礎を復習する

①試験の解き方の練習

「あらゆる試験に柔軟に対応できる」

解き方を習得することが大事

正しい試験の解き方

→各大学の最適化 ではない！

(本番に弱くなる逆効果に)

②分析して基礎を徹底する

- ・解き方、失点原因を分析する

- ・復習計画を立て、今まで使用した問題集で復習する

→全範囲で基礎の抜けをなくすことで医学部に合格できる実力がつく

▽なぜ逆転合格が可能？

エースアカデミーでは2025年、最終偏差値50代から51名が医学部合格。

▼逆転合格の理由

9月から受験本番まで4か月以上ある

(国立本番までは5か月ある)

→復習する時間も十分にあるが、「基礎が抜けてしまう、忘れてしまう」時間も十分ある

* 国立医学部に合格した生徒様との対談

共通テストで英数理90%以上、私立医学部複数にすでに合格している状況

→国立医学部直前に

「数学も英語も理科も不安で…。復習計画の優先度を教えてください！」

と面談で何度も相談していた。

→「共通テストのときは大丈夫でも基礎が抜けていくのが不安」

分野によっては30周,50周以上復習していることも。

*どちらが本番合格できそう？

A 9月以降、過去問演習や「大学別の対策」に大量に時間を奪われて基礎がどんどん抜けていく

B 9月以降、本番まで優先順位を毎週相談しながら、何周も繰り返して基礎を徹底する